

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

「改善の波を起こせ」職員組織「EDA（イーダ）サポート」の挑戦

2 取組期間

平成 16 年度～（継続中）

3 取組概要

職員有志で結成された組織「EDA（イーダ）サポート」において下記の取り組みを行っている。

1 職員向けエクセル講習会「EDA（イーダ）」

業務後の時間に主に新採用職員を対象にエクセルの講習会（関数やマクロ等）を平成 16 年度から行う。卒業生は 200 人を越え、それぞれの部署で活躍している。

2 業務改善組織「EDA（イーダ）サポート」

平成 30 年度から、各課等からの依頼に対して、主に「エクセル」を活用した業務改善の企画・実施を行っている。

4 背景・目的

平成 16 年度、エクセルを得意としていた 1 人の職員が、様々な相談に乗って対応をしていたところ、自身の業務に影響が出ることを懸念。エクセルを使いこなせる職員が増えればとの思いで、自主的に講習会を開催した。これが評判を呼び次年度以降も開催し、現在では主に新採用の職員を対象として実施している。平成 27 年度からは、講習会の OB 4 人が参画し組織化された。

エクセル講習会とは別に、講師の 5 人それぞれにエクセルに関連する色々な相談が持ちかけられている現状を踏まえ、個人ではなくチームで対応するため、「EDAサポート」を開始し、窓口を一元化した。各課等からの依頼に対して主に「エクセル」を活用した業務改善の企画・実施を行うに至った。

5 取組の具体的内容

1 職員向けエクセル講習会「EDA」

毎年、8～10月にかけて8コマの関数講座及び3コマのマクロ基礎講座を開く。

テキストは職員による手作り。1コマあたり90分。1コマの授業に対し、本講と補講の2回を実施するため、講座開催の実数としては22回。

2 業務改善組織「EDAサポート」

平成30年度より、各課等からの依頼に対して、主に「エクセル」を活用した業務改善の企画・実施を行う業務改善組織「EDAサポート」が始動。第1号の依頼案件として、委託業務の最低制限価格を算定し、入力金額の誤り等で想定する範囲内に最低制限価格が収まらない場合にエラーメッセージを出すシステムを開発。

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

職員の自主的な組織であり、通常業務とは別に、個人の得意なジャンルを活かした活動を展開している。

7 取組の効果・費用

1 職員向けエクセル講習会「EDA」

これまで200人以上の卒業生を輩出し、それぞれの部署で活躍している。

2 業務改善組織「EDAサポート」

委託業務の最低制限価格を算定し、入力金額の誤り等で想定する範囲内に最低制限価格が収まらない場合にエラーメッセージを出すシステムを開発。これにより、誤った価格での入札を未然に防ぐことが可能となった。なお、公式なチーム始動前にメンバーが個別相談に対応した事務改善は多数有り。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

当初1人で講習会を開催していたため、業務の多忙により日程の確保が課題であった。そのため講習会を受けた職員に声かけをして講師として参加してもらったため、継続が可能となった。

9 今後の予定・構想

講習会の継続とEDAサポートによる業務改善を実施することで、自主的に改善を行う職員集団の活動の様子を全庁的に認めてもらうことで、他職員への波及効果を図り、その輪を広げること。ひいては、より多くの職員の意識の改革・改善の波を起こし、役所全体の組織風土を変えることを目的としている。

今はエクセルに特化した事業改善だが、将来的には、様々なスキルを持った職員を形成し、そのスキルを活かした活動を展開したい。

10 他団体へのアドバイス

今回の事例はエクセルに特化していますが、法務に詳しい職員、英語が得意な職員など様々なスキルを持った職員が隠れていると思います。そういう職員が自主的に集まる風土の形成が必要だと思います。

11 取組について記載したホームページ

特になし